

黒潮

和歌山県看護協会 会報

平成25年1月発行

第122号

発行所

和歌山県看護協会

〒641-0036

和歌山市西浜1014-27

TEL:073-446-0605

FAX:073-446-0899

<http://www.wakayama-kangokyokai.or.jp>

発行人

木村 佐多子



あけましておめでとうございます（広報委員一同）

CONTENTS

- 新年のあいさつ 2
- ナース章受章者のことば 3～4
- 保健師のコーナー 5
- 助産師のコーナー 5
- 看護師のコーナー 5
- 専門認定看護師のコーナー（トピックス 2013）... 6
- 地域連携のコーナー 6
- 医療安全数珠つなぎ 7
- 准看護師から看護師資格を取得して 7
- リレーエッセイ 友達の輪 7
- 私の〇〇 7
- My Hospital 8
- 南和歌山医療センターにおける職員の禁煙推進 8
- 潜在看護職員復職支援研修 9

- 平成 24 年度 知事とコ・メディカル・スタッフ
団体及び病院協会長との懇談会 9
- 行政に要望致しました 9
- 第6回「毎日ウイーク・イン・わかやま」に参加 9
- 平成 24 年度施設会員代表者会 10
- 和歌山県自殺対策緊急強化事業を実施しました 10
- 平成 24 年 10 月 30 日、和歌山県と人権尊重の
社会づくりの推進に関し協定を締結しました 10
- 中学生に対する出前講座 11
- 看護の出前講座に参加して 11
- 平成 24 年度保健指導ミーティング事業を開催 11
- 和歌山県看護協会の動き 12
- 看護研修センター建設推進委員会報告 13
- 知って得する看護協会だより 14
- プレゼント 14

和歌山県看護協会 会員数

平成 25 年 1 月 16 日現在

会員総数	5,525 名
名誉会員	2 名
保健師	126 名
助産師	202 名
看護師	4,858 名
准看護師	337 名

新年を迎えて

公益社団法人 和歌山県看護協会 会長 木村 佐多子



平成 25 年の新春を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。

会員の皆さんには厳しく多忙な職場環境にも関わりませず、協会事業運営に対しまして、ご支援ご協力を頂いておりますこと、深く感謝申し上げます。お陰さまで事業は順調に進捗しております。

さて、去年は、政治的にも社会的にも混迷を極めた一年でしたが、ロンドン五輪大会での日本選手団の大活躍（史上最多の 38 個のメダル）や京都大学山中教授のノーベル生理学医学賞受賞と日本人の活躍に元気や勇気を頂いた一年でもありました。

今、日本は、超少子高齢多死社会を迎え、看護は病院のみならず地域へと拡大し、看護職に寄せられる期待は益々拡大し、看護職の確保定着が質・量ともに不可欠となっています。

これらの期待に応えるべく、基本理念「県民の健康な生活の実現」を目指して、「看護の質向上」「安心して働き続けられる環境づくり」「看護領域の開発・展開」を使命として、重点事業（看護実践能力及び専門性の強化・働き続けられる環境づくりと確保定着の推進・在宅看護の充実・災害時の看護支援対策の充実等）中心に活動して参りました。

看護の質向上に向けては、会員のニーズや社会の動向に対応すべく教育委員会中心に企画を進めております。去年は、県受託で本協会初の「看護教員養成講習会（8 カ月）」を開講できました。また、県内の専門看護師（4 人）・認定看護師（77 人）、認定看護管理者（10 人）の有資格者が年々増加し、各医療施設での活躍は勿論、県内の医療・看護の質向上に貢献して下さっておりますこと大変嬉しく思っております。

看護職が働き続けられる環境づくりに向けては、ナースセンター事業始め、潜在看護職復職支援、WLB 推進ワークショップ、新人看護職員研修、新人高度技術シミュレーション研修事業等を実施しており、これらは今後も継続し、看護職確保定着の推進を目指します。

現在、チーム医療を推進する上で、国が進めている「看護師特定能力認証制度」に関して、日本看護協会は、その法制化の要望と共に様々な試行事業の紹介に努めており、会員の皆様のご理解を深めて頂くためにも、今後も制度周知に努めて参ります。

また、協会組織の基盤となる会員数は 5,525 名（昨年同月比 150 名増）となり、会員皆様のご尽力の賜物と感謝申し上げます。組織強化は協会事業の源であり今後とも組織強化のご協力を宜しくお願い申し上げます。

新看護研修センター建設に関しては、新看護研修センター建設推進委員会のご報告（黒潮）の通り、検討を重ねており、重点事業として取り組んで参ります。

私達看護職の使命は、健康に関わる全ての職場において、人々のいのちと暮らしを支え守り続けていくことです。今年も、ご期待に添えるよう一丸となって取り組んで参りますので、ご支援・ご指導の程、宜しくお願い申し上げますと共に、皆様のご健勝とご多幸、そして更なるご活躍を祈念致しまして新年のご挨拶とさせていただきます。



ナース章を受章して



和歌山県難病・子ども保健相談支援センター

森 本 美紀子

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜り、身に余る光栄でございます。ご推薦くださいました関係者の皆さまに心からお礼を申し上げます。

37年間保健師として和歌山県で勤務できたことは、よき上司や同僚、後輩の皆さまのご支援とご指導の賜物であると深く感謝いたします。

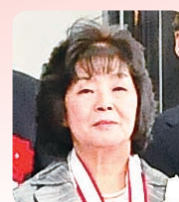
保健所では、市町村保健師の方々との連携のもと地域保健活動に携わり、たくさんの人との出会いから保健師活動を学ばせていただきました。また、福祉保健部では母子保健の分野や、看護行政等に携わり微力ながら地域看護の向上に努めました。現在は長期療養児や難病患者の方々の相談支援に携わっております。今後ともなお一層のご指導をよろしくお願いいたします。



有田市立病院

中 島 和 美

この度は、栄えある和歌山県ナース章を賜り、身に余る光栄です。ひとえに皆様のおかげと、感謝致します。早いもので卒業してから、35年、ただ目の前の職務に真面目に取り組むように心がけてきました。「病気の方には優しく、親切に。仕事はしっかり頑張るように」と、母に言われ、母は看護師ではありませんでしたが、今でも私の看護観の根幹にあるように感じます。そして、そこにこれまでの経験が上司、先輩、同僚、後輩の皆様のご指導・ご協力に支えられ、豊かに実ることで助産師としての私を作り上げています。辛いこともあり、挫折しそうになったこともありましたが、働いてきてよかったと強く思います。本当にありがとうございました。



国保野上厚生総合病院

黒 川 普 子

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜り、身に余る光栄に存じます。ご推薦いただきました関係各位の皆様には、心から感謝申し上げます。

昭和46年から看護の道を歩み始め、医療・看護の場は目まぐるしい変革が見られる中で、私生活・仕事上での困難な時も沢山ありましたが、これまで続けて来られました事は、健康に恵まれ、家族の協力は勿論ですが、沢山の学び・喜びを下さった患者様、私を励まし支えて下さった先輩・同僚・後輩の皆様のお陰だと思い深く感謝しています。今回の受賞を励みに、微力ではありますが「思いやる心」を忘れず患者様に満足して頂ける看護が提供できるよう頑張っております。今後とも御指導よろしくお願いいたします。



和歌山県立医科大学附属病院紀北分院

小 松 仁 美

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜り身に余る光栄でございます。このような栄えある章を授けられましたのも、ひとえに、ご推奨くださいました関係各位の方々をはじめ、上司、同僚、後輩の皆様方のご尽力、ご支援の賜ものと改めて深く感謝いたします。

長きに渡り看護の仕事を続けられたのも、上司、同僚、後輩、また患者さんから看護の素晴らしさを教えていただくことができたからです。

社会情勢が大きく変化し急激な高齢化の進展により、医療提供体制の変革が迫られてきています。変化に対応していくためにも、互いに連携・協働しながら尽力することが専門職としての努めと考えています。変革を自己の成長の機会ととらえ努力してまいりますので、今後ともなお一層のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



和歌山県立医科大学附属病院

谷 口 明 美

この度は栄えある和歌山県ナース章を賜り身に余る光栄に存じます。ご推薦頂きました関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。また、私を支えてくれました上司・同僚・後輩・家族に感謝致します。昭和51年に出産育児のため一旦退職しましたが、看護がしたくて4年後に同病院に再就職させて頂きました。平成15年に医療安全専従のゼネラルリスクマネージャーとなり通算7年間、医療安全活動に取り組んでまいりました。医療安全を通して医療・看護の質について多くのことを考え学ぶ機会となりました。今後も患者さんや職員の安全を願って、課せられた役割を果たしていく所存です。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。



和歌山県立こころの医療センター

西 原 均

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜り身に余る光栄に存じます。このような章を賜ることができたのは、ご推薦くださいました関係者の方々と先輩、同僚、後輩の皆様のご支援とご指導の賜物と深く感謝いたします。

昨近、少子高齢化や経済状況の悪化など、看護を取り巻く情勢はさらに厳しさを増してきています。状況の変化に対応して、私たちも前向きな変化を迫及しなければならないと思います。今まで経験した精神科看護を大切にしながらも、これからの看護を考えて質の高い看護を目指し、より一層努力して参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



公益財団法人白浜医療福祉財団 白浜はまゆう病院

東 直 子

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜りましたことは、この上もない喜びであり身に余る光栄でございます。ご推薦下さいました関係各位の皆様方に心から深くお礼申し上げます。

今日まで看護の仕事を続けることができたのも、諸先輩のご指導や同僚・後輩の皆様のご支援、家族の支えがあったからと感謝しております。

30年間社会保険紀南病院に勤務の後、白浜はまゆう病院で地域の方々に「質の高いやさしい思いやりの看護」を提供できるよう、職員と共に取り組んでおります。

医療・看護を取り巻く環境は厳しいですが、その中でも看護する楽しさを感じ、いきいきと働ける環境づくりを目指して微力ながら努力して参りたいと思います。

今後とも、皆様のなご一層のご指導をよろしくお願い申し上げます。



医療法人スミヤ スミヤ在宅ケアセンター

福 本 津 弓

「ナース賞受賞」の知らせを聞いた時、正直申しまして、「私のような至らぬ看護師が、なぜ？」と信じられない気持ちでした。

平成10年、スミヤ訪問看護ステーション設立の際、角谷理事長から、「あなたの好きなように仕事を進めて」とおっしゃっていただきました。この一言で、在宅看護について何の知識もない私が、色々なことにチャレンジできたことが今回の受賞につながったと思っています。角谷理事長始め私をこれまで支えて下さった方々に感謝の気持ちで一杯です。

受賞後、たくさんの花束やお祝いのお言葉を頂戴し、改めてこの賞の重みを感じています。今後も、在宅看護の普及、発展の一助となるよう努力しようと思っていますので、よろしくお願い申し上げます。



有限会社MURO グループホーム太陽のおうち

室 みち子

このたび、栄えある和歌山県ナース章を賜りましたことは、身に余る光栄でございます。

このような章を賜ることができたのも、ご推薦くださいました関係各位の皆様のご尽力の賜と心からお礼を申し上げますと共に深く感謝いたしております。

看護師として、医療の現場から福祉の分野に移り、施設を立ち上げてから9年目に入りました。

この間、苦労したことは数々ありますが、福祉の勉強をしてきた上で一番思うことは「その人」の捉え方だと感じました。その人の人生を知らなければ、ケアができないという現実です。今、根柢を持ってケアをしなければいけない重要性を伝えながら、日々頑張っています。今後も高齢化社会に向けて、次の世代に繋げられるよう努力して参りたいと考えております。

これからも、一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



海南市民病院

山 本 友 子

この度は栄えある和歌山県ナース章を賜り身に余る光栄と存じます。

ご推薦頂きました関係者の皆様方に心からお礼を申し上げます。

看護に携わり35年が過ぎようとしています。平穩無事に終わる日ばかりではありませんでしたが、ひたすら看護の道を邁進してまいりました。

H25.3.1 海南医療センターと名称を改め地域の中核医療機関として、大きな社会的役割を果たして行くために、各人が知識や経験を活かし新たな病院を創りだすために職員が一丸となり邁進して行きたい所存です。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

保健師のコーナー

保健師職能委員 高田 智子



保健師職能委員会では、委員のみなさんから地域での活動をお聞きたり、仕事への思いや悩みを共有したりと、毎回良い刺激からたくさんの元気と癒しをいただいています。保健師同志であることで、たとえ年齢や職域が違ってても互いにわかり合えることは、本当に素晴らしいです。

私たち委員は、役立つ魅力的な研修会等協会活動の充実を図ること、県下の保健師同志の交流の輪がつながり広がっていくことを願い活動しています。

さて、平成 25 年 3 月 2 日（土）に「保健師活動の構築にむけて（報告会・交流会）」を開催いたします。この会では、平成 24 年度厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業（厚生

労働省から看護協会への委託事業）の「社会の変化に対応した保健師活動の構築事業」に取り組んでいる上富田町の保健師と、「中堅期保健師コンサルテーションプログラム」に参加されている保健師職能委員から、取り組みの報告をしていただきます。また、大先輩の堀内恵美子さんからは「保健師活動の原点」について、後輩に伝えたい熱い思いを語っていただきます。そして、交流会を通して、日頃の疲れを癒し、明日からの活力としていただけたらと思います。ぜひ、楽しみにご参加ください。

私たちはこれからも県下の保健師が、いきいきと元気になれる笑顔でがんばれる、そんな協会活動を行います！（詳しくは、案内をご覧ください。）

助産師のコーナー

助産師職能委員 堰 本 利 絵



こんにちは、助産師の堰本利絵と申します。三重県との県境にある新宮市立医療センターで勤務しています。昨年の台風 12 号では、甚大な被害を蒙り、まだ復興途上にある場所が多く残されている地域です。ご支援・ご協力いただいた県内の看護職の皆様方に、この場をお借りして深く御礼を

申し上げます。

さて、私は昨年度より、職能委員会に参加させていただいています。そして、普段は出会うことのできなかった、県内の他医療施設の助産師の方々と御縁をいただき、皆様と協働

させていただいていることが、私の特別な宝物となっています。研修会開催・思春期教育出向・調査等の活動や、毎月の会合で施設同士の情報交換・新しい知識の習得等ができる職能委員会を通して、皆様方との輪（和）づくり・そして看護のやりがいを感じることができ、感謝しております。

最近では、iPS 細胞でノーベル賞を授賞した山中教授が「ビジョン設定と、たゆまぬ努力が大切」と発言をされているのを知る機会がありました。職業人として、理想の言葉であると感じ入りました。微力な私ではありますが、残りの任期半年、メンバーの皆様と共に頑張りたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

看護師のコーナー

看護師職能委員会Ⅰ 米 田 宜 美



昨年度より看護師職能委員をさせていただいています。当初は職能委員会そのものについてもよくわかっていなかったこと、認定看護師として看護師職能委員会に入ること、自分が果たせる役割は何だろうかと思い、不安に感じたこともありました。委員長をはじめ、委員の

みなさんと一緒に活動していく中で少しずつではありますが、看護師職能委員会活動において役割が果たせつつあるのではないかと感じられるようになってきました。

9 月の看護師職能集会においては、「つなぐ看護を考える」

をテーマに病院、施設、在宅における看護の連携についてシンポジウムを開催しました。10 月には専門看護師・認定看護師、管理職を対象に看護師特定能力認証制度について、日本看護協会常任理事の洪愛子先生にご講演頂きました。来年 1 月には准看護師研修会の開催を予定しています。

看護師と一口に言っても、その活動の場は幅広く多様です。看護師職能委員会の一員として活動することで、さまざまな場所で働く看護師が、看護の力をより発揮できる環境作りのお手伝いができ、嬉しく思います。残りの任期も精一杯努めさせていただきます。

看護師のコーナー

看護師職能委員会Ⅱ 津 田 智 巳



今年度より和歌山県看護協会にて看護師職能委員会がⅠとⅡに分かれ職能委員会Ⅱは立ち上げの年となりました。看護師職能委員会Ⅱの分野では、介護・福祉関係施設・在宅等領域における機能強化をめざし、「介護福祉施設に働く看護職の資質の向上」を目標に活動しています。

今年、団塊の世代の第一陣が 65 歳となり、日本は先例のない「超高齢社会」「多死時代」を迎えます。超高齢社会においては看護師の働く場はますます広がり、在宅や介護施設での医療依存の高い高齢者を他部門他職種と連携して支えていくことが重要となってきています。これから迎える

超高齢社会において「死」と向き合っていくことはどの現場においても避けては通れない問題であり、「看取り」がどのような場でも安心して迎えられるよう看護師の力がいるような現場で発揮されてくると思います。「死を看取る」医療を充実させるための取り組みが求められています。

今年度「安らかな看取りのために～施設や在宅でのかかわり～」というテーマで介護施設での出張研修を計画しています。私は現在訪問看護ステーションで勤務しています。家で最期を迎えたいと願う方に安心して家での生活を送れるよう日々奮闘しています。在宅で働く看護師としての立場から意見を出し委員会をより意義のあるものに出来るよう頑張りたいと思っています。

橋本市民病院 糖尿病看護認定看護師

金 本 純 子



私は 2011 年に糖尿病看護認定看護師の認定を受けました。現在は代謝内科が属する内科系病棟に勤務しています。近年糖尿病患者さんの数は増加の一途をたどっており、成人の 3～4 人に 1 人が糖尿病と言われ、糖尿病合併症の進展予防だけでなく、発症予防にも力が注がれています。糖尿病を患った患者さんは日常生活の中で、食事療法、運動療法、薬物療法を続けていかなければなりません。しかし一般的に治療として「制限」を強いられ、「糖尿病＝ぜいたく病」と言われることが多いため、糖尿病であること自体に辛さを感じながら生活している人がいます。和歌山県で初めての糖尿病看護認定看護師となり、前述のような糖尿病患者さんの辛さをたくさんの人に理解してもらえる働きかけが必要だと感じています。その上で糖尿病患者さんが、その人らしく生きていけるような生活に沿った支援をしていくことを目標としています。

外来通院中の糖尿病患者さんも短い診察時間の中では

療養生活について相談できないこと

が多いため、2012 年 4 月より糖尿病療養支援外来という看護専門外来を担当させてもらうこととなりました。療養支援外来では、血糖パターンを見ながら患者さんに合った食事の摂り方などを一緒に考えたり、予防的フットケアを行なっています。患者さんの生活やセルフケア方法を一緒に振り返ることで、私自身も患者さんから学ばせていただいています。また、今年から診療報酬に加えられた糖尿病透析予防の療養指導を行なえるよう準備を始めました。2 年目の今年は他院で新たに 2 名の認定看護師の仲間が増え、日本糖尿病療養指導士（CDEJ）のスキルアップ研修や、和歌山県地域糖尿病療養指導士（WLCDE）の認定委員にも加わり、患者さんへより質の高い看護が提供できるようなスタッフ育成にも取り組んでいます。今後も糖尿病と共に生きる人と一緒に歩む看護師でありたいと思います。

地域連携のコーナー

白浜はまゆう病院地域ケア室について

白浜はまゆう病院 地域ケア室 副室長

宮 本 美 紀



当院地域ケア室は、社会福祉士や看護師が病病連携・病診連携をおこなったり、入退院の連絡調整を行う「医療相談・地域連携係」、またケアマネージャーが在宅生活のお手伝いをする「在宅介護支援センター」から成り立っています。

相互に、協力・相談・連携することで、退院の調整や退院前後の生活も把握でき、患者様や利用者様により良い環境づくりに努めるようにしています。

今回、地域ケア室での看護師の役割について説明したいと思います。

転院予定患者様の事前訪問や患者様からの相談など行っています。また重要な役割として退院調整があります。退院調整看護師が、入院時また入院後数日以内に、病棟の協力を得ながらシートを用いて情報収集に努めます。患者様の入院前の生活、状況を知っておくことが、退院後の生活を支えるうえでとても大切です。またこのシートはカルテ内の共有シートとして回覧することがで

き、医師はじめ他職種が情報を得る

ことができるようになっていきます。その他退院支援計画書を作成したり、またケアマネージャーがいる場合は、入院時に病棟看護師と連携するようカンファレンスの実施もしています。そして退院時期が近付くと、退院後の生活を具体的に想定します。入院前と同じようにできるか、またできない場合は何が必要か考え、サービス調整に入ります。退院後もより安全な在宅療養が継続できるよう準備します。

今日、高齢化社会を迎え医療と福祉の連携が重要といわれる中、地域の医療機関や介護、福祉施設等他事業所との円滑な連携をおこない、健やかに豊かに生活できるようお手伝いできたら…と思っております。白浜はまゆう病院の理念にもありますように、地域に根ざし、誠実さと思いやりを持って、質の高いサービスを提供できるよう、今後も努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

医療安全

数珠つなぎ

新宮市立医療センター

医療安全管理者

坂本 美弥



「医療安全と看護師力」

私は今年度、専従の医療安全管理者となり、レポートの集計・報告などのデータ管理、医療安全管理ニュース発行などの広報活動、アクシデント事例の分析、患者相談対応、マニュアルなど文書類の整備等の業務に奮闘しています。

そんな日常で“やはりすごいな”と感じるのは、看護師パワーです！どこでもそうですが、インシデント

を報告する姿勢はピカイチですね！看護師力を集結すれば、患者と医療者の安全も確保できると信じてこれからも頑張ります。

次回号に紹介させていただく方は
国保日高総合病院 医療安全管理責任者
上道 雅和様 です



准看護師から看護師資格を取得して

宮井 千佳代

私は、長年准看護師として働いてきましたが、家族や職場の理解と協力のおかげで今年4月看護師免許を取得することができました。

エビデンスに基づいた質の高い看護ができるようになるというのが、在学中の目標でした。今はまだスタートラインに立ったばかりで、日々患者様に接し看護の奥深さを思い知る毎日です。今後も自己研鑽を積み重ね、より高みをめざして頑張っていきたいと思います。

リレーエッセイ

友達の

輪

Vol.43

中谷病院 小林 春子

京都大学の山中教授がノーベル生理学・医学賞を受賞し、難病で苦しんでいる人たちはもちろん、日本中に喜ばしいニュースを与えてくれた。山中教授のエピソードや語録も数多く報道されているが学ぶことも多い。そのひとつに人生のステップとなる留学生の望ましい時期を問われ『いつ』よりも『何を』やるかが大切である。『1回成功するには9回くらいは失敗しないと成功はない』人生も実験も同じだ。失敗の連続である私にとって何か救われたような気がした。



今回は、くしもと病院 松浦三代さんをご紹介します。

私の



《私のストレス解消法》

橋本保健所 丹下 百花



私は水泳教室に通っている。その教室で友人(教師・僧侶・医師・ヘルパー等)ができた。様々な職種の友人との会話は、他の人の考え方を知る機会と気づきを与えてくれる場となった。そのため思考の幅が広がり、人を深く理解しようと思う気持ちが芽生えた。結果人間関係が良好になったと考える。人間関係が良好になるとストレス軽減にも繋がる。

言葉に出すことは自分の考えを整理することにもなるし、会話はストレス解消法になる。また、運動は安眠を提供してくれる。寝ることもストレス解消法になる。これからは、友人作り(会話)・運動及び安眠を大切にして、たくさんのことにチャレンジ。

「楽しみ」という宝を探し続けてこれからを生きたい。

My Hospital

社会医療法人黎明会 北出病院



看護部長 澤 越 純 子

北出病院は御坊市にあって 182 床の民間病院です。県下で唯一の社会医療法人格を取得しており、地域に密着した実績を評価されていると言えます。今年は創立 50 周年を迎えます。

また現在、新病院を増築中で 26 年度中の完成が待たれるところです。北出病院には誇れる薔薇園があります。大切に育てられてきた薔薇が駐車場周辺に 96 種類、250 本植えられており、5 月には色とりどりの大輪の薔薇が咲き誇り、朝の出勤時には香りに包まれる感じがする日があります。現在は秋咲きの薔薇が美しく咲いています。薔薇を見ながら患者様の散歩やリハビリの歩行練習などはよくみられる光景です。是非、見ごろの時期にお立ち寄り下さい。

今年は、念願でありました認定看護師の育成ができました。感染管理と皮膚排泄看護認定看護課程で学ぶ事ができました。ジェネラリストの看護に専門性の高い看護師が介入することにより、看護の質は高まると期待できます。また、リンクナースシステムでは安全リンク

ナース、感染対策リンクナース、蘇生リンクナースを位置づけており患者様には適切な治療を受けていただき、良い看護を提供できる重要な力ギになっていると確信しています。リンクナースの活動が、今では看護部のみならず院内全体に広がりつつあります。

また、看護教員養成研修にも送り出すことができ、院内研修体制は勿論、平成 26 年度開校の日高看護専門学校の学生の受け入れ体制も充実されつつあります。現在取り組んでいることは、パートナー・シップ・ナーシング (PNS) です。福井大学医学部附属病院での実習を予定していますが、既に北出病院流で取り組み始めている病棟もあります。ペアとなった看護師が、双方の受け持ち患者様に関するすべての事柄を確認し、情報交換を行いながら二人三脚で看護を進める看護提供方式です。個人プレーからチームプレーになりコミュニケーションが何十倍も増し、期待できる成果は数多く考えられます。とにかくイノベーションとチャレンジ精神で前向きに取り組んでいます。



南和歌山医療センターにおける職員の禁煙推進

南和歌山医療センター 内科医長（公衆衛生担当） 森岡 聖次

当院は 2010 年 9 月から敷地内禁煙となり、喫煙率の低下、禁煙挑戦への誘導に努めてきました。全国のがん専門病院では、職員の喫煙率目標を 10% 以内に設定しているようですが、まずは現行喫煙者の半減をめざしています。私はこれまで保健所での勤務歴が長く、禁煙外来の実務は、当院が初めてです。患者も禁煙初挑戦、私も禁煙外来 1 例目の方が禁煙成功されたのは、自分に対する大きな励みになりました。

当院では、これまでニコチンパッチ（ニコチネル TTS）もチャンピックスも院外処方のみでしたが、職員の禁煙相談をよりタイムリーに行うため、院内処方でも投薬可能なように、今年（2012 年）から両薬の在庫を置いてもらっています。さっそく利用者が出て（禁煙にも成功）、口コミなどで他の職員への禁煙啓発になることを期待しているところです。

当院の禁煙外来には過去 2 年間で 75 人中 53 人（71

%）が 3 か月後の禁煙に成功（2012 年 4 月現在）しており、現在も数人が挑戦中です。何が禁煙成功と断念を分けるのかを解析しましたが、ほとんどすべての項目で、両群には差はありませんでした。解析していない項目、例えば家族の支援や会社の喫煙環境の差異なども影響しているのかも知れません。今後は世界保健機関のたばこ規制枠組み条約に謳われている政府の実施すべき政策：たばこ増税と受動喫煙防止の徹底を支えに、地域に開かれた対策サロンとしての機能を継続していきたいと思っています。私個人は、非常勤務している診療所 2 か所での禁煙外来にも取り組み、禁煙挑戦者にエールを送る毎日です。

がんばれ禁煙挑戦者。よりよい看護はご自身の禁煙から始まります。また言わずもがなながら、禁煙できれば肌年齢も 10 歳若返ります。サプリメントによる美容と健康よりもまず、先に禁煙挑戦をお勧めします。そして禁煙達成後は、ぜひ受け持ち患者の禁煙勧奨にも関わってください。

潜在看護職員復職支援研修

平成 24 年 10 月 11 日から 11 日間潜在看護職員復職支援研修を実施しました。

この研修は、未就業等の看護職員が、最新の医療や看護に関する知識・技術を学ぶことにより、職場復帰を円滑にすることを目的としています。受講生 19 名が 2 日間の講義や技術演習のあと 8 日間 12 病院で実習を行い、現在 8 名が職場復帰しております。ナースセンターでは、今後も安心して職場復帰が出来るよう支援していきたいと考えています。

参加者の声

- ・技術について不安がありましたが、技術演習で以前行っていたことを思い出す事ができました。
- ・離職期間が長く受講するのに勇気がいりました。病院で白衣を着用したときとてもうれしかった。やっぱり看護が大好き。自分にあった施設を選び就職したい。

・この研修を受講し、自分の悩んでいたハードルが越えられたように思います。



平成 24 年度 知事とコ・メディカル・スタッフ団体及び病院協会長との懇談会

平成 24 年 11 月 19 日（月）19 時から知事・病院協会長との懇談会が開催されました。

和歌山県病院協会及び和歌山県看護協会を含む 8 コ・メディカル団体が参加しました。

各団体代表者から、概要や課題について仁坂知事に説明を行いました。

看護協会長は、看護職の確保・定着推進事業や看護の出前講座、近畿地区看護学会や来年度開催予定の第 44 回日本看護学会学術集会について等紹介を行いました。

仁坂知事は、各団体に対し質問や保健医療福祉に関する県での取組みを話され 21 時閉会しました。



行政に要望致しました

平成 24 年 12 月 4 日（火）に和歌山県庁において、木村会長、黒田専務理事、古川常任理事が出向いて、看護行政を担当している福祉保健部長様はじめ関係者の方々に、准看護師制度に関する現状の理解、保健師の人員確保と教育体制の整備、ナースセンター事業強化による確保定着支援の 3 点について要望を行いました。

第 6 回「毎日ウイーク・イン・わかやま」で「まちの保健室」開催

平成 24 年 11 月 3 日（土）に和歌山城砂の丸広場で上記催しが開催され、和歌山県看護協会は今年も「まちの保健室」を開催致しました。当日は、260 名の参加を得て、血圧、体脂肪、骨密度測定、健康相談、栄養相談等を実施し、県民の皆様の健康増進に役立てて頂くことができ、大好評のうちに終了致しました。



平成 24 年度施設会員代表者会 (日本看護協会 坂本すが会長をお招きして)

平成 24 年 12 月 1 日 (土) 施設会員代表者会を開催しました。

木村会長から日本看護協会および和歌山県看護協会の動向の説明のあと、和歌山労働局基準監督部監督課長の友住功一郎先生から「看護師等の(雇用の質)向上と医療機関における労務管理について」のご講演を頂きました。午後は、日本看護協会会長坂本すが先生

をお招きして、「社会や日本看護協会の動向を知り、今後の看護管理に活かす」というテーマで医療や介護を取り巻く状況や日本看護協会の取組みなど力強く語られ、参加者に力強いエールを送ってくれました。参加者からは、労務管理は大変役に立った、坂本会長からパワーをもらった、来年はパートⅡを計画してほしい等の感想が寄せられました。



和歌山県自殺対策緊急強化事業を実施しました

平成 24 年 11 月 10 日 (土) にプラザホープにおいて、看護職、介護職等 64 名の参加のもと、講演会「命をささえるこころのケア」を開催しました。阪南病院院長黒田健治先生から「うつと睡眠」、和歌山県立医科大学保健看護学部の武用百子先生から「ゲートキーパーの役割」についてご講演を頂きました。

「ゲートキーパーという言葉は初めて聞いた」「看護職がゲートキーパーの役割を果たす必要がある」との感想が寄せられました。

また、自殺予防の啓発活動として県内 8 地区支部の協力を得て老人看護月間行事にあわせ「こころの健康チェック」を実施し 570 名余りの参加がありました。



平成 24 年 10 月 30 日、 和歌山県と人権尊重の社会づくりの推進に関し協定を締結しました

中学生に対する出前講座 — 由良町思春期体験学習 —

急速な高齢化会の進展、医療の高度化・医療安全に関する高まりや、医療制度改革における在宅療養の推進などに伴い、看護職員の確保が重要な課題です。一方 18 歳人口は減少の一途をたどる中で、看護協会では、一人でも多く「看護の道」を目指していただくために、平成 24 年度から看護職員確保の一環として看護の魅力を伝える「出前講座」を実施しており、今回は 10 月 10 日、由良中学校で行政担当者、看護協会日高地区支部長や国保日高総合病院総看護師長と共に開催致しました。

(記 古川 紀子)



看護の出前講座に参加して

国保日高総合病院 総看護師長 浪 政 美

10 月 10 日に看護職員確保対策事業の取り組みの一環として、由良町思春期体験学習に参加させていただきました。

開催当日は由良町の中学 2 年生 11 名が、6～12 か月の乳幼児健診に参加し、乳児の抱っこ体験や妊婦体験などの学習を行っていました。思春期体験学習の最後の時間に「看護のお仕事について」のテーマで、看護職の出前講座を行いました。

出前講座では、パンフレット「看護への道」を参照しながら看護職の種類や業務内容・活躍の場などを説明の後、私の体験談を少しお話しさせていただきました。

中学生を対象とした出前講座は初めての取り組みでしたが、看護職に興味のある方に今後の進路の 1 つとして考えていただき、さらに看護師を目指してもらえればとてもありがたいと思っています。今後もこのような取り組みを継続できたらと考えます。

平成 24 年度保健指導ミーティング事業を開催

保健師職能委員長 高 垣 通 代

厚生労働省の保健指導支援事業として、保健師のスキルアップとネットワークの強化を目的に開催されており、和歌山県では、平成 23 年度から開催しています。今年度は、「災害時の保健指導を考えよう」というテーマで、国立医療科学の奥田博子先生から「災害時における保健師の役割」についての講演、保健師から 2 題の実践事例発表を行いました。

グループワークでは積極的な意見交換がありました。参加者は 39 名で、「今後の自分自身に役立つ」「強化すべき自身のスキルに気付いた」等の報告がありました。



和歌山県看護協会の動き

平成24年度第6回理事会

報告事項

1. 日本看護協会理事会・地区別法人会会員会
2. 地区別職能委員長会

協議事項

1. 平成26年度日本看護協会代議員・予備代議員の選出について ……承認
2. 24年度事業中間報告（案）と監査報告 ……承認
3. 25年度の重点事業について ……承認
4. 25年度教育計画（項目）について
5. 新看護研修センター建設推進に関する事 ……継続審議

開催日時：平成24年12月14日（金）13：30～17：00
会 場：B 室

6. 日本看護協会会長表彰・日本看護協会名誉会長推薦について ……承認
7. その他
1) 効率的な会議運営について ……承認

その他の報告事項

1. 会員数について
2. 県ナース章受賞者について
3. 県内関連団体会議参加報告
4. 第6次保健医療計画について

平成25年度改選役員、推薦委員及び 平成26年度日本看護協会代議員、予備代議員への立候補・推薦について

《選挙管理委員会からのお知らせ》

平成25年度 改選役員、推薦委員及び平成26年度日本看護協会代議員、予備代議員の選挙を実施致します。立候補される方は、正会員5人以上の推薦を受けて、立候補届出用紙を下記に郵送して下さい。

【改選役員数と役職等】

1. 役員 8名
理事 常任理事候補者 1人
理事 書記長候補者 1人
理事 職能理事候補者 3人
（保健師 1人 助産師 1人 看護師Ⅰ 1人）
理事 地区理事候補者 3人
2. 推薦委員 6名

3. 平成26年度 日本看護協会代議員 6人 予備代議員 6人

【立候補基準】

- 1) 和歌山県看護協会の目的達成のための活動に積極的に任務が遂行できる人
- 2) 和歌山県看護協会の会員歴5年以上で、協会組織を理解している人
- 3) 和歌山県看護協会が定めた会議に出席できる人

【受付期間等】

立候補届出用紙は和歌山県看護協会にありますのでご連絡下さい。

〈送付先〉〒641-0036 和歌山市西浜1014-27

和歌山県看護協会 選挙管理委員長宛（親展）

〈提出期限〉平成25年2月22日必着

平成24年度和歌山県看護教員養成講習会（平成24年4月16日～12月21日）

春から始めました講習会も冬を迎え、34単位867時間の全課程を修了いたしました。おかげさまで受講生21名全員、閉講式にて修了証書を授与されました。

開催場所を提供して下さった和歌山県立高等看護学院、各授業の先生方はじめ、実習等で指導下さった看護学校の専任教員の皆様や学生さん等、関わって下さった皆様に感謝いたします。

受講生のみなさんは、今後、それぞれの施設で看護教育に携わる予定です。講習会で得た学びと仲間を胸に、各自の目標に向かって後輩育成にご尽力されることを期待しております。



近畿地区看護研究学会を和歌山市民会館において、平成24年度12月7日に開催した。国の施策として在宅医療を推進し、在院日数の短縮化が進む中、「退院調整・退院支援」の必要性が課題となっている現状から、テーマは、「チームで支えよう！退院支援」とした。

基調講演のテーマは、「退院支援の実践から問いかけるもの」で、淀川キリスト教病院、地域看護専門看護師の三輪恭子先生に講演して頂いた。シンポジウムは、「つなごう、紡ごう、退院支援の輪—それぞれの立場から、今、考える—」をテーマに、医師、病院看護師、介護支援専門員、訪問看護師、患者家族、それぞれの立場からご発表頂いた。また、リラクゼーションメニューとして「家庭でできるツボ刺激」を実施した。

演題発表は口演・示説を合わせて48題、参加者は、近畿地区6府県から674名の方をお迎えし盛大に開催

された。当学会は、今年度の和歌山県での開催を最後に終了することと決定致しました。学会にご協力・ご支援頂きました皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。



看護研修センター建設推進委員会報告

委員長 塩路 有理

平成24年度、6回委員会を9月3日、第7回委員会を11月12日に開催し、新看護研修センターの新たな候補地を検討しました。検討の結果、候補地を3か所に絞り11月19日に委員会で物件を現地見学しました。候補地それぞれに、利点・欠点ではありますが、今後起こるであろう災害に強い地・紀南、紀北からの利便性を考慮し、以下の2

か所に候補地を絞り込みました。

- ①和歌山市坂田
- ②海南市南赤坂台

今後も検討を継続し、新看護研修センター建設に適切な土地を出来るだけ早く皆様に提示していく方針です。

心地よい眠りで、あなたの元気を応援します。



東洋羽毛のゴア® 羽毛ふとん

汚れのもとになるものはふとんの中に入りません。

寝ているときの汗はこもりません。

まるでふとんが呼吸をするように

いつも衛生的で心地よい温かさを保ちます。

温かいを超えた至福の寝心地を、

是非お試しください。



東洋羽毛関西販売株式会社

和歌山営業所
〒640-8329 和歌山県和歌山市田中町2-18-1-2F
TEL 0120-32-7766

ホームページアドレス <http://www.toyoumo.co.jp>

清潔・きれい・衛生
Bedding Products

知って得する看護協会だより

第5号



●発行責任者／看護師職能委員長 東 直子 ●編集／看護師職能委員会

あなたのために、できること あなたに、できること

協子は、先輩看護師に薦められ看護協会に入り本当によかったと思っています。協会から発行される「協会ニュース」・「黒潮」にも、関心を持つようになり色々な情報を得る事ができました。また、協会が企画した新人研修を履修し知識を深めました。来年度は、看護実践能力開発に関する研修へ参加し、専門職としてさらに自己啓発をしていきたいと思っています。

看護職賠償責任保険制度を、知っていますか？

日本国内で看護職が行う業務によって、他人の身体や財物に損害を与えたり、人格権を侵害した為、法律上負担しなければならない損害培養責任を補償されます。

保障内容

対人賠償・人格権侵害・対物賠償・初期対応費用 等
看護職賠償責任保険制度 <https://li.nurse.or.jp>

日本看護協会には、奨学金制度があります。

「看護師学校養成所2年課程（通信制）」進学者
「看護系大学院生」 「認定看護師教育課程受講者」

【お役立ち情報】

日本看護協会ホームページでメールアドレスを登録すると、新着情報がメールで配信されます。
新しい情報をいち早く入手することができます。詳しくは、日本看護協会ホームページをご覧ください。

第13回

プレゼント！

「足まくら」
を
2名様に！

どちらか1つ
当たります！

「図書券」
1,000円分を
3名様に！

みなさま、どしどし応募してください。

はがきに ①希望の商品名 ②氏名 ③会員番号 ④郵便番号・住所
⑤電話番号 ⑥勤務先名 ⑦本紙へのご意見・ご要望を明記の上、
2月25日(月)までにお送り下さい。(消印有効・1人1通のみ)
抽選の上、当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

東洋羽毛様から
足まくら
頂きました



宛先

〒641-0036 和歌山市西浜 1014-27 和歌山県看護協会 「1月号プレゼント」係

プレゼント

応募者の声

- “地区支部だより、支部での取り組みがわかり参考になります。
- このところ仕事のストレスからか体調をくずしがちです。ストレスを緩和させる体操などあれば教えていただけないでしょうか？又、そんなコーナーがあればいいのですが…。